

住民自治協議会だより

第12号

発行：小田切地区住民自治協議会 TEL 026-229-1511

「活き生き小田切みんなでトーク」

住民自治協議会の主催により、9月20日（土）小田切農村環境改善センターで、平成24年の市民会議以来2年ぶりに名称も「活き生き小田切みんなでトーク」と変更されて開催された。

加藤市長、樋口副市長をはじめ、5部長を含め市側9名の出席を頂き、地区住民86名が参加した。

地区提案議題要旨

1、「福祉自動車等の運用の見直しについて」

- ① 福祉自動車＝立ち寄り先の範囲を、医療機関以外に金融機関や商業施設までひろげていただきたい。
- ② デマンドタクシー＝降車場所を選択できるように、また夜間の運行をしていただきたい。

長野市の回答要旨

- ① 市内全地区と協議・調整し、条件の整理の検討必要。
利用拡大に、タクシー事業者の合意を得るのに十分な理由が必要。
利用増に伴う運転ボランティアの確保、運営経費の確保について検討が必要。

国の制度改正の動向と対応

国は介護保険制度の改正の中で、多様な生活支援サービスについて、大幅な見直しをすることになっている。地域の実情を把握した上で、新制度に基づく生活支援の検討。
買い物弱者支援は、今後の制度改正の動向を見ながら関係部局と共に検討する。

- ② 地域外輸送・休日・夜間運行は経費増になり地元負担も考える必要がある。
篠ノ井信里地区は地域外運行をしているが、利用料の外一世帯当たり500円（年額）負担している。

2、「富士の塔登山道の危険個所の整備と観光資源としての有効活用について」

回答 観光振興課と青少年錬成センターは看板類の設置や最低限の草刈り、倒木の整理など実施している。今後小田切地区と青少年錬成センターの指定管理者と市観光振興課の3者の役割分担を明確にしていく必要がある。

自由討議（回答はいずれも要約してあります）

1 「空き家利用対策と定住促進の取り組みについて」

回答 他地区から移住の「農業者向けの空き家改修事業」の補助金100万円限度で実施。他移住につながる空き家の補助制度を検討している。

2 「旧学校施設の有効利用について」

回答 旧中学校は昭和42年の建設であり、老朽化しているため「倉庫」としての利用に限定している。大改修の必要があり再利用は不可。

3 「有害鳥獣対策について」

回答 市は電気柵・防護柵の設置経費の10分の4を補助している（別に住自協で3万円補助）。小動物を補助対象とした場合の財政的な影響を検討している。



26年度地区防災訓練

11月9日(日)小田切地区自主防災会は昨年引き続き防災訓練を実施した。

今年のテーマは震度6強の地震発生と、時間80ミリの豪雨の中で災害が発生したとの想定で、現地対策本部の設置訓練と被害状況の把握、伝達と救出及び炊き出し訓練を実施した。

又、小田切地区住民自治協議会・地区自主防災会は、長野市消防局の補助金制度を利用して、担架1基と高性能のサイレンサー付のメガホンを購入した。

担架は公民館体育館入り口(げた箱)脇に設置した。

訓練参加者 災害対策本部役員(行政含む) 15名 地区住民 58名
消防局安茂里分署 4名 小田切分団 46名 合計 135名



避難・伝達訓練

- 1 災害発生後公民館体育館に対策本部を設置した。
- 2 各区長及び区自主防災会は、被害の状況と安全確認、所在確認を行なった。
- 3 区長(区自主防災会長)は一時避難所開設を周知すると共に住民を避難させた。
- 4 区長は対策本部に災害状況と避難状況を報告。
- 5 本部の指示に基づき市が開設した避難所(今回は小田切練成センター分館一小田切交流広場)に避難した。
- 6 避難人数の再確認。

応急手当・消火訓練

AED(心肺停止時)の使い方。人工呼吸の仕方。消火器による初期消火。煙体験等。

炊き出し訓練

140人分の炊き出し訓練をした。

燃料に薪を使い大釜で豚汁を作る。

大釜2個を使い、1人前米0.5合をビニール袋(災害包装食=ハイゼックス)に入れ水を加え沸騰した釜で40分間煮た。

出来上がった米飯の意外なおいしさに試食者はしきりに感心していた。



小田切支所には避難所開設の為に非常物品を備蓄しています。



(備蓄物品一部展示)

炊き出し用 大釜セット・ペーパー皿
非常食 サバイバルフーズ・乾パン
飲料水
簡易トイレ・汚物処理剤等
毛布 150人分
男女 下着類・オムツ等
発電機 投光器 その他救助資材等々

市消防署安茂里分署の鎌田所長の「日頃の心構えが大切」との訓示で訓練の締めくくりをした。

自主防災組織を作ろう。

今回実施の防災訓練は“いざ災害発生時”に有効に活動出来る各区毎の自主防災組織を立ち上げる事も目標とした。

地域おこし協力隊派遣 2名申し込む

地域おこし協力隊とは、地域への支援政策（地域おこし+定住促進）を目的とした制度である。

農業支援、特産品発掘や、住民の生活支援等「地域協力活動」に従事してもらいながら、その地域に定住、定着してもらう。

地方自治体が都市住民を募集し、隊員1名当たり年間最大400万円で1～3年の期間で受け入れ、希望地区に配置する。経費は特別交付税で賄われる。

25年度にスタートした制度であるが、27年度には小田切住自協も協力隊の派遣を要請した。

長野市は東京、名古屋、大阪で地域の特産物を販売しながら、セミナーやフェア等で小田切地区等に応募する人を集めた。

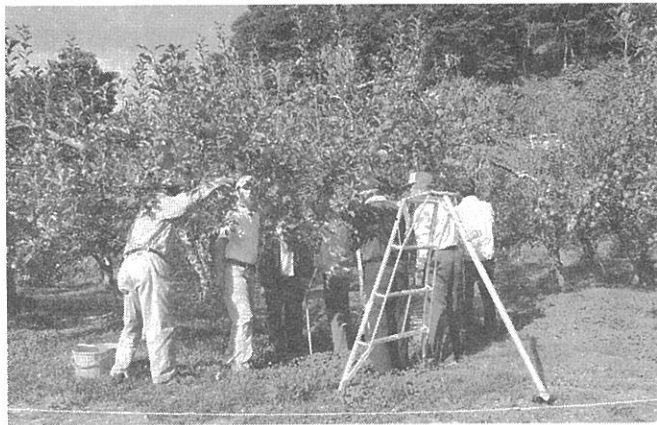
小田切地区への応援希望者を願って！！



東京会場にて



小野平のキャベツ



国見のリンゴ園で



「信州小田切の里」りんご

今後長野市は、地域おこし協力隊希望者の選考、面接を行い来年4月頃の配属をめざす。

『地域の元気を募集します』

平成26年度支所発地域力向上支援金事業 最大50万円

長野市は26年度新規事業として、市内32支所に支所長権限で一件あたり10万円以上最大50万円の元気だし支援制度を創設した。

この制度を利用した小田切地区での活動について、住自協・区長会を通じ応募希望の集約がなされ、選考の結果次の3件が承認された。

- | | | |
|---------------------------|--|---------|
| 1 巡礼桜保存会 | 巡礼桜周辺の景観形成事業 | 250,000 |
| 2 花上組 | 遊休農地復元による花いっぱい活動 | 73,000 |
| 3 小田切農村改善センター
等利用運営委員会 | 「食」を通じた地域コミュニケーション
の拡大と健康づくり（調理器具の購入） | 177,000 |

田舎暮らし

民宿まほろば店主 寺尾 恭四郎

犀川沿いから一気に急勾配を駆け上り、大自然に足を踏み入れてゆくこちよさ、最後に細い道を恐る恐る下って辿り着く「まほろば」駐車場で、車から降り立った途端に感じるのは「わーっ！空気が旨い。」

需要と供給の関係で、当地に生れ育って見馴れた当り前の景色や物事が、未体験の人々にとっては感動を伴うすばらしい価値となる事があります。例えば九州あたりで除雪機や冬用タイヤが不要のように、長野ではモーターボートや漁船が全く意味をなしません。必要とされるからこそ、そこに価値が生れるのです。

春に山々を染め抜く薄墨色の山桜、その後訪れる新緑の季節、「緑色」だけで実に何百種類もあると気付かされる初夏。秋は山々がオレンジ色や黄金色に変わり、緑葉樹と混り合う風景は実に艶やかです。冬、それら全てを覆い尽くす純白の雪。目に飛び込んで来る四季折々の自然の織り成す色の変化は、都会のアスファルトやコンクリートの灰色に囲まれた生活では決して味わうことが出来ません。せいぜいクリスマスやバレンタイン、ハロウィンといった商業主義に乗せられた外来のケバいい色使いのイルミネーションや看板などで辛うじて季節の変化を感じるのです。更には雪融け待つとともにうぐいすの地鳴きに始まり、カエル、蝉、秋の虫たちと視覚のみならず聴覚にひびく四季の変化。車のエンジン音や電車の通過音、踏切の警告音など一切ここでは響きません。目の前には近代的な建造物や高圧線などなく、まるで昭和の幼い頃に逆戻りした感覚、これこそが関東一円や、愛知、静岡などから高速道路を乗り継いで時間とお金をかけて来ないと得られない「付加価値」なのです。もちろん善光寺さんや戸隠神社といった観光スポットも欠かせられないものなのですが、それとは別に、ただのんびりと過ごす為にだけ「まほろば」に来ると言うリピーターの方が増えているのも事実です。デジタル・デトックスといわれる携帯スマホもインターネットもないストレスのない時空間です。

お陰様で信州のこの地に越して来て8年目を迎えることが出来ました。来たばかりの頃、戸惑いや不慣れの中、地元の方々、ご近所の皆さん、実に暖かくそして優しくおつきあいして頂き、楽しく皆様にとけこんでゆくことが出来たのではと喜んでいました。都会では隣の住人の顔も見ただ事がない、話もしたことがないという無関心の時代に、ここでは、春まつりや秋の収穫祭、お念仏、道祖神まつりといった伝統行事が大切に受け継がれており、皆さんと顔を合わせお酒を酌み交して親しみを増してゆく、お互い声かけ合って助け合って生きてゆく、もう都会では忘れ去られ、荒んだ心の人々が世の中を埋めてゆく中に、本当のそして本来の日本人の暖かさが包んでくれる生き方、暮らし方がここには存在しているのです。決してなくてはならない大切なものであると思います。

積雪も少なく町にもかなり近い、何ら不便を感じる事のないこんな素敵な環境を捨てて、どうして若い方々は飛び出してゆくのでしょうか。いや飛び出して行かれた皆さんこそ、改めてこの里山の素晴らしさに気付いて頂きたいと思います。



六地区民生児童委員協議会研修会 小田切地区で開催

7月2日、6地区民児協（小田切、七二会、鬼無里、戸隠、芋井、浅川）は小田切錬成センターで開催された。長野市民児協伊藤会長をはじめ82名の民生委員が参加し、講師には、硫黄島協会長野県支部長 栗林直孝氏（栗林中将のひ孫）から『大叔父忠道は硫黄島で何を想いどう行動したか』と題し、遺言「悲しき」をもとに悲劇とその後の遺骨収集について話された。

第2部として、長野市芸術館（市民会館）開館に向けイベントとして行われている、音楽キャラバンコンサート隊によるピアノとソプラノの、クラシック音楽を楽しんだ。

その後懇親会が開かれたが、参加された人たちは錬成センターで開催されたことの新鮮さと、錬成センター職員の日頃からのおもてなしの心に改めて感じっていた。

日頃は児童・生徒の学習施設であるが、夏休み終了後でもあり地区の活性化の一端にもなったと思われる。



多額の寄付金いただきました。



去る9月11日地区在住の男性より、小田切地区住民自治協議会に対し100万円の寄付の贈呈がありました。

寄贈者の強い意志により匿名としますが、福祉を中心に活用される様申し添えがありました。寄贈者の思いにそえるよう活用を考えています。大変ありがとうございました。

今年は災害当たり年！！ 災害義援金を贈りました。

2月14日～16日に山梨県・長野県を中心に豪雪ではじまり、まいまい蛾の大量発生など異常の年を体験してきました。

小田切住民自治協議会は、日赤長野支部長（加藤長野市長）の要請により激甚災害に対し義援金を贈ることとした。

9月から各区毎に義援金の募集をお願いし、10月の締切までに地区の皆さんの御厚意の総額は、74,887円となりました。

寄せられた義援金の送り先は次の通りです。
ご協力ありがとうございました。

月 日	義援金贈り先	金 額
7 / 9 豪雨	長野県南木曾町	44,887円
8 / 16 台風	徳島県災害	10,000
8 / 17 台風	京都府・丹波市	10,000
8 / 19 台風	広島市	10,000
	合 計	74,887円

住自協 3地区 交流会開催される

今年で5回目となる小田切、七二会、中条の3地区交流会が9月18日中条公民館で開催された。

小田切からは21名が参加し、総勢70名を超える盛会となった。

3地区は少子高齢化、農地の荒廃と鳥獣害等共通の課題が山積している中、小田切からは①うんめえ塾その後②支所発地域力向上支援金を活用した巡礼桜周辺景観復活事業③小田切の里DVD作成事業の3件を発表した。

中条地区からは近隣の助け合い有償援助活動について、七二会地区からは住自協自主財源確保のための事業展開について発表があった。

最後に長野市地域振興部、原部長からやまざと支援ビジネス補助金の活用や支所発地域力向上支援金増額の方針が示された。

防犯灯LED化進捗状況

長野市は平成25年度から5ヶ年計画で市内全域で防犯灯のLED化をすすめています。

本年10月末までの小田切地区の進捗状況は下表の通りです。

区名	25年	26年	27年以降	全灯数
深 沢	12	11	33	56
吉 窪	10	10	28	48
下 宮	5	5	18	28
上 宮	7	7	20	34
上 山	10	10	27	47
下 山	8	7	13	28
国 見	8	7	22	37
中 組	8	5	11	24
千 木	7	6	18	31
地蔵平	5	5	15	25
裾 花	8	8	23	39
計	88	81	228	397

ゴミ分別強調巡回指導実施

「毎日出るゴミ！」小田切地区は長野市の10月はゴミゼロ月間運動に併せ、各区ごとにポイ捨て空缶等ゴミ拾いを行なった。

今年の長野市のゴミ分別巡回指導は小田切地区が該当し、戸数の多い裾花区と地蔵平区となった。

10月16日の朝7時に区長および区衛生係はゴミ集積所に集まり、市環境課職員の立ち合いのもと（可燃ゴミ、不燃、プラ）が適正に分別されているか検分したが、問題なく適正に分別されていた。

市職員は、資源ごみが多くなる様、一方燃やすゴミを減らすよう住民の皆さんに心がけるよう指導して欲しいとの要望があった。

竹内重雄さん 大臣表彰受ける。

10月13日（体育の日）永年生涯スポーツの普及発展に尽力したことで表彰されました。

表彰式は文部科学省中央合同庁舎で行われ全国で156名が受章されました。

11月19日竹内さんは地区のスポーツ振興に役立ててと、地区住民自治協議会に5万円の寄付をしていただきました。



「小田切の里 健康踊り」DVD作成される。

平成20年に保健補導委員会が中心になり「小田切の里健康踊り」が
つくり、以後地区民運動会などで踊り親しまれてきた。

事の始まりは平成17年の区長会に遡るが、明治時代に作詞された小
田切の里を後世に残す為、まず5線譜にする事からはじまった。

今回のDVDには、踊り方の手ほどきから最後は参加者全員により
輪になっての踊りが約10分の収録となっている。

完成されたDVDは、踊り手の皆さん、各区に1枚宛て配布した。

一人暮らし高齢者の集い開催される

「一人暮らし高齢者の集い」が、7月1日（火）稲荷山温泉杏泉閣で開催された。

今年の対象者は、6月現在63名で当日は29名の参加であったが、役員・来賓など16名と共にバス2台に分乗し会場に向かった。

今年も一人暮らしの参加者から一人1,000円の負担をしていただいたが、終始和やかに話がはずんでいた。

富士の塔 遊歩道開設に向けて現地踏査実施

今年の「生き生き小田切みんなでトーク」で市観光振興部は、遊歩道
開設の実現に向けて小田切地区、青少年練成センター、市観光振興課の
3者が具体的な役割分担と、協議を通じて付帯設備の整備をと前向きな
回答が示された。

地区として現状を把握する為関係者15名により、10月30日調査踏査を
実施した。



保健補導員会運動講習会実施 9月29日(月)

今年度は、公民館との共催で飯綱霊仙寺湖ノルディックウォーキングコースで行なった。

湖周辺の3コース（2.3km・5.5km・8km）をそれぞれの体力に合わせて歩いた。当日は天候にも恵まれ、紅葉初めの樹間をいい汗をかきながら歩くことで、日頃の運動の大切さを実感した。

健康食視察研修&個別相談会 11月14日(金)（個別相談会は11月27日・28日）

今年の視察研修は千曲市の（有）宮城商店と長野市の長野牛乳（株）に行った。宮城商店では工場見学後漬物を使った調理実習を行い、改めて漬物の利用範囲の奥深さを感じた。また長野牛乳では、畜産農家の減少により、地元生産の農産物を使った新規事業開拓のお話し等を聞いた。

長野牛乳は発足当時から集乳等で小田切とも浅からぬ縁もあったとのこと。私たちがほぼ毎日口にしてる乳製品が、人的接触が皆無に近い衛生的製造環境で生産されていることに、感心し安心した。

おぼえ

憶

11月22日 22時8分震度6弱の大地震が発生した。白馬・小谷村・長野市の一部損壊を含めた住宅被害は282棟となった。負傷者は44人（24日現在）となった。小田切地区では県道への土砂崩落、上山田中公民館内に落石・水道管破損等の被害が発生した。（当住自協だより発行準備中）